

《聖書》マルコによる福音書 6:7-13

## 十二人

マルコによる福音書3:13-19には、イエスが十二人を選んで使徒と名づけたことが伝えられています。そもそも十二という数は、イスラエル民族にとって他のどの数よりも大切にしていました。イエスが十二人を選んだことを伝える記事は、それなりの意味が含まれています。イスラエルが十二部族から成り立っていたように、真のイスラエルの継承者であるキリスト教も、十二人の使徒によって建てられる必要がありました。それを裏付けるものとして、十二人の使徒の名前で、ペトロ、ヤコブ、ヨハネの三人をのぞくと、ほとんど聖書の中で重要な位置を占めていません。おまけに、使徒言行録1:12-26では、イエスを裏切ったユダにかわって、わざわざマティアを選んでいるぐらいです。このように、使徒のそれぞれが大切なのではなく、十二という数が大切なことがはっきりと分かります。

パウロは、自らを使徒の中に数え上げて、十二人の弟子と使徒とを区別して使っています(1コリント15:1-11)。ここから判断すると、キリスト教の初期の時代から、十二人という呼び名が使われていたことは確かです。しかし、十二人がそれぞれどのような役割を果たしたかは不明です。聖書では十二人よりも、使徒の働きに関心が向けられています。使

徒の働きを通して、福音が世界に広まっていくことに興味が置かれています。

## 使徒の派遣

イエスがいつ使徒を派遣したのか。これについて、はっきりと確認することができません。使徒言行録を見る限り、使徒たちが公に人々に向かって宣教を開始するのは、聖霊が下ってからです。

マタイによる福音書では、この疑問を解決するために、最初の使徒の派遣は、イスラエルの民だけに限られています(10:5-15)。そして、イエスの復活の後、十一人の弟子をすべての民族に派遣しています(28:16-20)。少なくとも、マタイによる福音書で見ると、ルカによる福音書が伝えているように、イエスの宣教は先ずイスラエルに向けられたが、異邦人に向けられたとは考えられていません。むしろ、異邦人に対する宣教と、ユダヤ人に対する宣教を主張する二つのグループの対立を解消しようと努めているのです。

イエスが使徒を派遣したことは考えられます。しかし、それがどの程度の成果をおさめたのかわかりません。多分、イエスが当時の社会に受け入れられなかったように、イエスの弟子たちも受け入れられなかったことが考えられます。使徒たちが、実際に、イエスの派遣に答えることができたのは、イエスが十字架にかけられて殺されてからです。